

## 22 放射線科研修プログラムの概要

### 1. プログラムの目的と特徴

当院の放射線科は画像診断、核医学、放射線治療の3領域全てに携わっており、このいずれの領域の研修も可能である。画像診断領域では単純X線検査、X線CT、MRI、血管撮影、消化管造影、超音波検査を用いて中枢神経、頭頸部、胸腹部、骨盤部、骨軟部など全身の臓器組織を対象に放射線科専門医が画像診断を行っている。

核医学領域ではSPECTを用いて脳血流、心筋、骨、および腫瘍炎症シンチグラフィーを中心に検査診断を行い、また放射線治療領域ではリニアック装置を用いて放射線治療専門医が悪性腫瘍の治療を行っている。

画像診断では前述の多くのモダリティによって得られた画像が個々に診断されるだけでなく、むしろ各種画像情報を有機的に統合する総合画像診断が求められている。そのためにはすべての検査の適応の熟知と総合画像診断が可能な放射線学的診断技術の修得が必要である。また、当院では総合病院としての一般外来病棟から新生児、救命救急センターの多種多様な疾患における画像診断を手掛けている。これらの疾患について、他科との連携により、画像に限らず診断から治療までの基本的な知識を修得し、これに立脚して、さらなる画像診断での専門的知識と技術の修得、実践を研修の目標とする。

### 2. 研修内容と到達目標

#### 1年目

General Radiologistとしての基礎的知識と検査技術を修得する。指導医の元で各種検査を施行し、代表的疾患を診断治療する。

#### 2年目

代表的疾患での正確な検査の施行と的確な診断、および稀な疾患に対する知識を修得する。研修医の指導を行う。

#### 3年目

General Radiologistとしての一般的画像診断技術の上にさらに自分が特に得意とする分野 (Subspeciality) についての専門的放射線医学的知識を修得し、実践する。

このSubspecialityがその後の臨床研究の基礎となる。